

令和 7 年度 参画と協働施策実施状況報告書													
通番	事務事業 名称 広陵町男女共同参画審議会				所管部 署	課名 協働のまちづくり推進課							
(ア) 総合計画上の位置づけ													
施策	番号	施策名			展開 方向	番号	展開方向名						
	5-5	男女共同参画の推進				3	男女共同参画に対する理解と関心の推進						
(イ) 実施内容・体制													
協働する相手		広陵町男女共同参画審議会委員											
協働実施手法		3-1 審議会、策定委員会等											
具 体的 な 協 働 者	学識経験者、町の関係団体の代表者、公募委員などからなる広陵町男女共同参画審議会委員						⑨ 母 数 の 協 働 者 の	15人					
期 待 成 果	公募による委員を含む審議会を開催し、さまざまな分野及び立場から選出された委員からの意見を、男女共同参画社会づくりの施策に反映することを目的とする。令和4年度に広陵町男女共同参画後期行動計画を策定したことから、町や関係団体を含めさまざまな主体が連携しながら男女共同参画やジェンダー平等を推進する。												
事 業 内 容	過年度の男女共同参画事業の進捗評価、男女共同参画やジェンダー平等への提言など ※審議会は年1回であったが、令和7年度は2回実施												
(ウ) 事業費													
事業費(決算(見込)額・予算額)				単位	R	5	R	6	R	7	R	8	今後の事業費の方向性
				千円		144		35		144		173	維持
今後の方針										拡大	拡大・縮小・廃止の理由	行動計画に基づき、男女共同参画やジェンダー平等を推進する。	
令和 7 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目								行政の 自己評価	協働する相手の 自己評価		
5 4 3 2 1 と て も で き た	そ れ な り に で き た	ど ち ら で も な い	あ ま り で き な か つ た	全 然 で き な か つ た	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	4	4.2					
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	5	4.6					
					自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	4	4.2					
					相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	4	3.8					
					情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	4	3.4					
					評価・見直し	事業の目標設定をするともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	3	2.8					
					相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	4	4					
					合 計			28	27				
総合評価		A評価 35～26		B評価 25～21		C評価 20～16		D評価 15～11		E評価 10以下		A	A
		行政の意見					協働する相手の意見						
協働によって得られた効果		住民の立場からの意見が聞けて、来年度の事業に活かせる意見がたくさん聞けた。					多様な立場から意見を出し合い、積極的な意見交換でメンバー間で共有でき、行政にも知ってもらえた。委員と事務局がパートナーとして対等な関係性で、今後の取組を深めることができた。						
協働することで感じた課題や今後の方向性		昨年度は1回のみの開催であったが、2回開催することができた。 審議を深めるためには、回数が少ないと感じた。					全庁を横断的に取り組む必要があると感じた。 報告会だけではもったいないので、審議するものを明確にして、より施策に反映できるような審議をしていきたい。						
(エ) 協働する相手の評価について													
評価方法(誰にどのように) 委員5人の評価の平均													